

具志川(北)地域

土砂・洪水災害 ハザードマップ凡例

● 土砂災害警戒区域(イエローゾーン)	
● 天願川浸水想定区域図	
○ 0.5m未満	
○ 0.5~1.0m未満	
○ 1.0~2.0m未満	
○ 2.0~5.0m未満	
○ 5.0m以上	
● 避難場所	
○ 一時避難場所	
○ 広域避難場所	
○ 収容避難所	
○ 福祉避難所	
● 市町村境界	
○ 国道・路線番号	
○ 市庁舎	
○ 警察署	
○ 交番・駐在所	
○ 消防署	
○ 小・中学校	
○ 高校	

土砂災害警戒区域(イエローゾーン)は、沖縄県が土砂災害防止法に基づき、土砂災害のおそれがある場所を指定したものです。土砂災害警戒区域の指定状況の詳細、最新情報につきましては下記ホームページをご確認ください。
<http://www.pref.okinawa.jp/site/doboku/doboku-chubu/keikaku/urumashi.html>
 天願川浸水想定区域は天願川水系天願川について、水防法の規定により指定された浸水想定区域と、当該区域が浸水した場合に想定される水深その他を示したもので、この浸水想定区域は、平成23年時点の天願川、川崎川の河川の整備状況を勘案して、洪水防護に関する計画の基本となる降雨である概ね30年に亘る程度起きた大雨が降ったことにより、天願川及び川崎川(天願川合流部)がほとんど溢れた場合に想定される浸水の状況をシミュレーションにより求めたものです。なお、このシミュレーションの実施にあたっては、天願川のはん詰、想定を超える降雨、高潮、内水によるはん詰等を考慮していないので、この浸水想定区域に指定されていない区域においても浸水が発生する場合や想定される水深が実際の浸水深と異なる場合があります。

この地図は沖縄県知事の承認を得て、沖縄県地図形態図を複製したものである。(平26年地図2300号)
 この地図を用いてさらに複製する場合は、沖縄県知事の承認を得なければならない。



具志川(北)地域

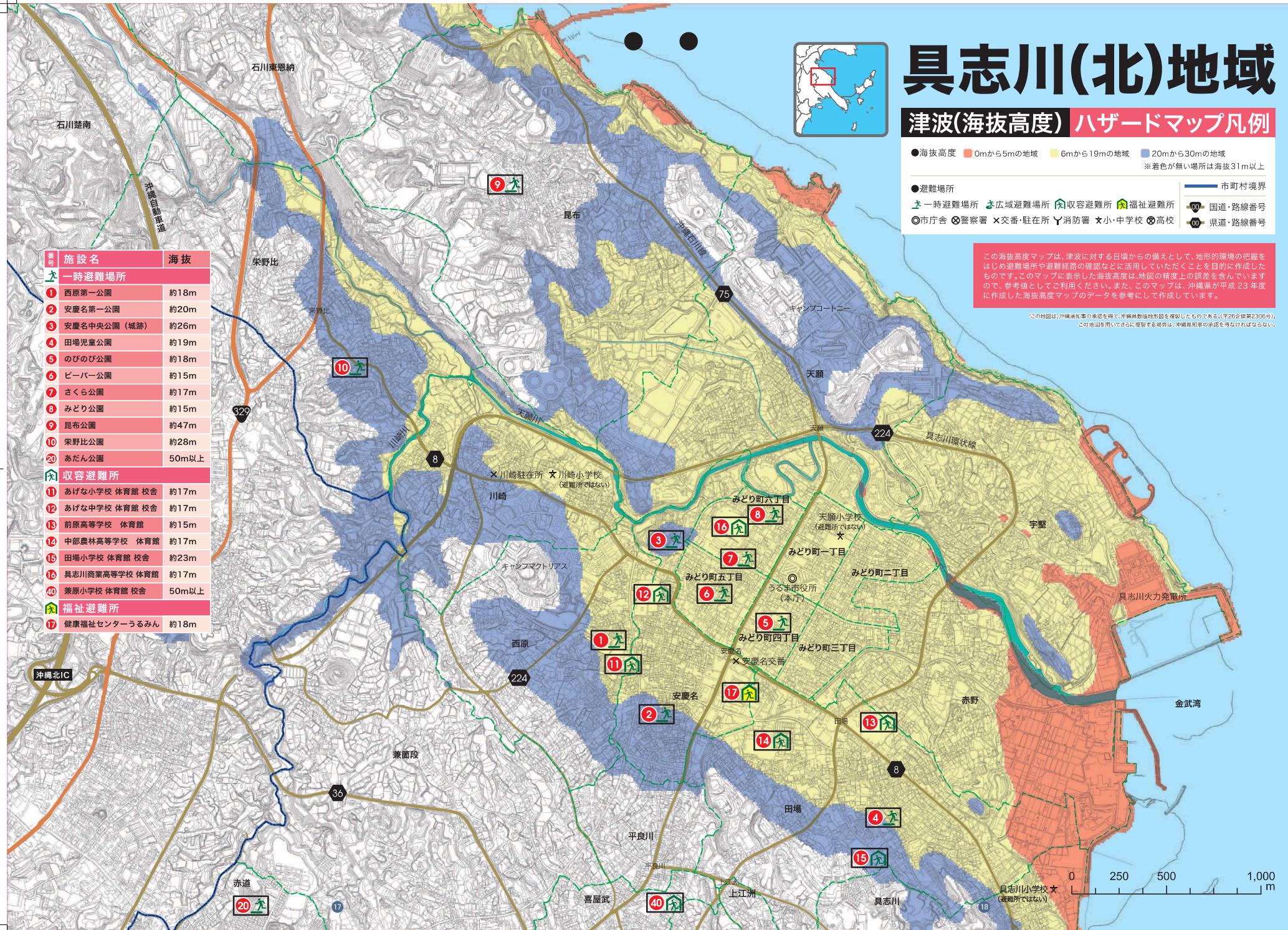
津波(海拔高度) ハザードマップ凡例

● 海拔高度 ■ 0mから5mの地域 □ 6mから19mの地域 ▨ 20mから30mの地域
※着色が無い場所は海拔31m以上

● 避難場所
■ 一時避難場所 ■ 広域避難場所 ■ 収容避難所 ■ 福祉避難所
◎ 市庁舎 ◎ 警察署 × 交番・駐在所 △ 消防署 ★ 小・中学校 ◎ 高校

この海抜高度マップは、津波に対する日頃からの備えとして、地形の環境の把握をはじめ避難場所や避難経路の確認などに活用していただくことを目的に作成したものです。このマップに表示した海抜高度は、地図の精度上の誤差を含んでいますので、参考値としてご利用ください。また、このマップは、沖縄県が平成23年度に作成した海抜高度マップのデータを参考にして作成しています。

この地図は、沖縄県知事の承認を得て、沖縄県地図を複製したものである。(平26令價第2306号)
この地図を用いてさらに複製する場合は、沖縄県知事の承認を得なければならない。



具志川(北)地域

揺れやすさマップ

マップ凡例

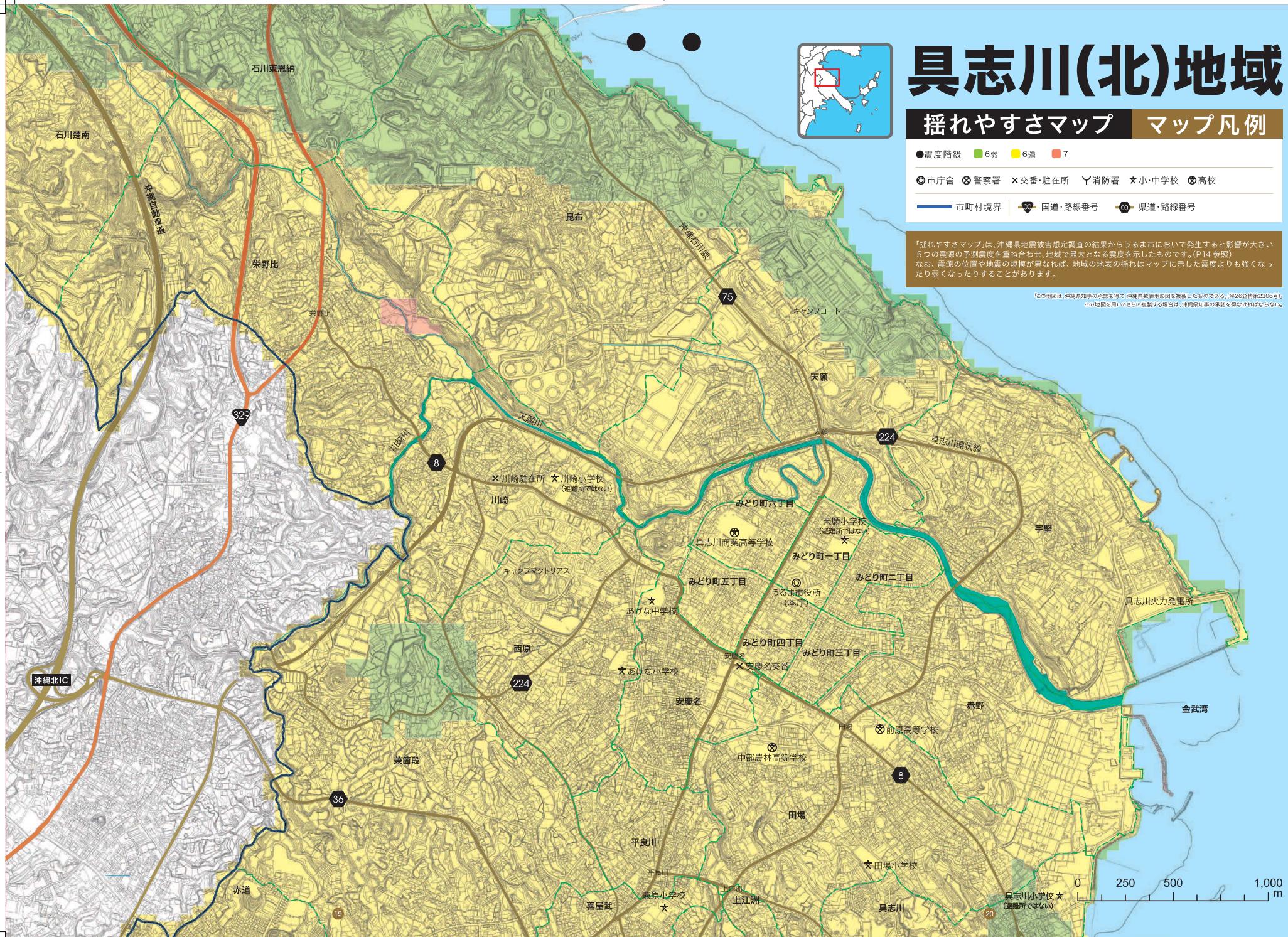
●震度階級 6弱 6強 7

◎市庁舎 ◎警察署 ×交番・駐在所 ▾消防署 ★小・中学校 ◎高校

—市町村境界 —国道・路線番号 —県道・路線番号

「揺れやすさマップ」は、沖縄県地震被害想定調査の結果からうるま市において発生すると影響が大きい5つの震源の予測震度を重ね合わせ、地域で最大となる震度を示したものであります。(P14 参照)
なお、震源の位置や地震の規模が異なれば、地域の地表の揺れはマップに示した震度よりも強くなったり弱くなったりすることがあります。

この地図は、沖縄県知事の承認を得て、沖縄県教諭地圖形を複製したものである。(平26公信第2306号)
この地図を用いてさらに複製する場合は、沖縄県知事の承認を得なければならない。



具志川(北)地域

地域の建物全壊率予測 マップ凡例

● 建物全壊率 0%以上から3%未満 3%以上から5%未満 5%以上から10%未満
○ 10%以上から15%未満 □ 15%以上

◎ 市庁舎 ◎ 警察署 × 交番・駐在所 ▾ 消防署 ★ 小・中学校 ◎ 高校

— 市町村境界 — 国道・路線番号 — 県道・路線番号

「地域の建物全壊率予測マップ」は「揺れやすさマップ」で示された震度と建物構造(木造・非木造)、建築年次別の建物棟数から全壊する建物棟数の割合(全壊率)を算出し、50m区画毎に、5段階の建物全壊率として示したものです。なお、全壊する建物棟数には液状化による建物被害棟数も含まれています。赤色で示した地域ほど、古い建物が多く密集しているため、建物全壊率が高くなり、相対的に被害を受ける建物が多いことを示しています。また、色が塗られていない部分(白色)は、建物がないなどの理由で全壊率を算出することが困難な部分となっており、安全な箇所を示しているものではありません。実際には、地震に対する建物の強さは個々の建物により異なります。そのため、建物全壊率が高い地域であっても耐震化した建物は倒れにくく、逆に建物全壊率の低い地域であっても老朽化した建物は全壊する可能性があります。

この地図は、沖縄県知事の承認を得て、沖縄県数値地形図を複製したものである(平成26企番第23054)。
この地図を用いてさらに検討する場合は、沖縄県知事の承認を得なければならない。

